

農作物生育・技術情報8号

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

1 水稲 中苗:ななつぼし

収穫時期が遅くなると未熟粒は減りますが、胴割れや茶米が増え品質の低下を招きます。特に、今年は穂揃性が悪く、登熟ムラを生じる可能性があります。玄米判定で的確に収穫時期を見極め、計画的に収穫しましょう。

生育状況 (9/1現在)			〈技術対策〉
項目	29年	平年	
稈長	81.6cm	77.6cm	<ul style="list-style-type: none"> ・降雨などで水が滞水している場合は、速やかに排水対策を行い、土壌表面を乾燥させる。 ・倒伏しているところや、登熟が遅れている稲は、他の稲と一緒に収穫すると品質低下を招くので別刈りをする。 ・いもち病が見られた水田は、発生した部分を別刈りし、ほ場から搬出する。
穂長	18.7cm	17.7cm	
m ² 穂数	582本	524本	
籾黄化率	18.8%	23.4%	
成熟期	—	9月15日	
生育の遅速	—1	—	

2 主要野菜

作物名	生育状況	技術対策
トマト	<ul style="list-style-type: none"> ・5月定植で7段目、6月定植で3～4段目を収穫中。 ・灰色かび病、うどんこ病、葉かび病、ハダニ類、裂果、軟果が発生している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・裂果防止のため、最低気温が12℃を下回る場合は早めにハウスを閉める。 ・低温、降雨により疫病の発生が懸念されるので、早めに防除を行う。
きゅうり	<ul style="list-style-type: none"> ・8月中旬から収穫開始。 ・生育はやや遅れており、子づるが着果肥大中である。 ・べと病の発生が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・べと病防除は、発生に応じて予防効果の高い薬剤と治療効果を伴う薬剤を使い分け、防除効果を高める。
ハウス軟白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> ・アザミウマ類、ハモグリバエ類、萎凋病、黒斑病、葉先枯れが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・萎凋病が多発したハウスは計画的に土壌消毒を行う。
アスパラガス(ハウス立茎)	<ul style="list-style-type: none"> ・灰色かび病、斑点病、アザミウマ類の発生が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハウス内外の除草を徹底する。 ・追肥は9/中～下を最終施用とし、収穫終了後の過度な生育を防止する。

※日高管内でネギアザミウマに対する合成ピレスロイドの抵抗性が確認されました。今後は合成ピレスロイド系薬剤の連用を避け、ローテーション防除を行いましょう。

3 畑作

(1) 秋まき小麦（きたほなみ）

適期は種を心がけ、越冬前の生育を十分確保しましょう。

越冬前目標生育量：葉数6枚以上、莖数1,000本/m²

表 秋まき小麦（きたほなみ）のは種

は種適期	は種量	基肥量(10aあたり)	備考
9月15～ 20日	6kg～8kg (晩播きで最大10kg程度)	窒素：4kg リン酸：15kg カリ：10kg 苦土：4kg	耕起前に堆肥散布、 心土破碎を実施する

注) 土質は火山性土

(2) 馬鈴しょ

① 茎葉枯凋後、皮むけしなくなったら早めに収穫しましょう。

② 茎葉枯凋後土中に長くおくと黒あざ病菌核が付着し商品価値を低下させます。
茎葉処理2週間後より収穫を開始しましょう。

③ 収穫作業は気温10℃以上の暖かい日に行い、収穫後は涼しいところに貯蔵しいもの
の温度を下げましょう

降雨の影響を受けているほ場では、特にほ場での一時選別を丁寧に行い、製品率
向上を目指しましょう。

4 畜産

(1) サイレージ用とうもろこし

黄熟期の平年は9/25です。今年は乳熟期が4日遅れで推移しています。

ほ場により登熟進度が違いますので、雌穂を確認して黄熟期まで登熟を進めましょ
う。

表 サイレージ用とうもろこし生育状況（9月1日現在）

作物名	生育状況			生育期節	遅速 日数	登熟状況
	項目	29年	平年			
サイレージ用 とうもろ こし	稈長	318.6cm	282.2cm	乳熟 進度率 80%	-4	低温・日照不足のため、登 熟はやや遅れている

5 農作業安全対策

余裕を持った作業計画で、事故防止に努めましょう!

作業予定を事前に確認しあい、適正な労働配分を考慮しましょう!

収穫作業に備え、機械の点検整備を行いましょ!!